

IV 指導法改善に向けて

1 各教科の指導のポイント

国語科

- 「基礎・基本」の問題は、各設問の出題の趣旨が学習指導要領の一つの指導事項に対応することを基本とし、3領域1事項のすべてからの出題とした。
「思考・表現」の問題は、学習指導要領に示された言語活動例などを参考に、実生活の具体的な場面や児童生徒が授業などで実際に行っている言語活動を想定したものを基本とし、一つの領域だけでなく、複数の領域の指導事項に対応させて出題した。
また、記述式の問題では、一つの限定される正答を書くのではなく、いくつかの選択肢やいろいろな考え方があるものなどについて、自分の考えを明確にして書くことを求めた。
- 「基礎・基本」については、小5、中1、中2ともに概ね定着しているが、「思考・表現」については、小5、中1、中2ともに、課題が多く、次のような授業改善が必要である。
 - ・ 課題解決のための学習の見通しをもたせる工夫
(課題解決の過程を明確にした単元指導計画の作成、単元を貫く言語活動の設定)
 - ・ 具体的な言語活動の中で、目的や方向性を考えて話し合わせたり、根拠を明確にして伝え合わせたりするなどの工夫
 - ・ 目的や条件に応じて多様な図書資料等を効果的に活用させる工夫
(読書との関連や読書環境の整備)

指導主事 奥山 茂樹

社会科

- 「思考・表現」は、教科書にない資料も使い、資料を比較したり関連付けたりして読み取ったことや、社会的事象の特徴や背景の説明を記述する問題等を出題している。「基礎・基本」は教科書の資料を使って出題している。また、日本の地方区分や国の名称と地図上の位置、日本周辺の国名など、分からないと社会に出てから困るであろうことがらも出題している。
- ねらいとする社会的な見方・考え方を明確にした上で、それらに関する自分の考えや分かったことを記述させるなど、言語活動を効果的に活用し、その定着を図りたい。また、「基礎・基本」に関しては、家庭学習も有効に活用し定着を図りたい。
 - 獲得させたい社会的な見方・考え方の明確化とまとめの工夫
 - ・ 目標の分析や明確化 ← 学習内容の構造化や知識(認識)の構造化を手がかりとする。
 - ・ 「振り返る」まとめ以外にも、考えを「広げる」まとめや「深める」まとめを工夫
 - 社会的事象に対する自分の考え等を書く活動の効果的な導入
 - ・ 自分の考え等をまとめる場面の設定
 - ・ 理由や根拠を意識して述べさせることの重視 → 思考の深まりにつながる。
 - 授業と連動させた家庭学習(予習や復習)
 - ・ 予習や復習を生かす発問や学習活動 ← 予習や復習は教科書を読むことを基盤とする。

指導主事 田宮 弘宣

算数・数学科

- 「思考・表現」に関する問題を全問題数の3割程度出題した。小学校、中学校ともに、全国学力・学習状況調査のB問題と同質の問題になっている。どの学年においても、判断の理由や課題解決の見方や考え方、解決にいたるまでの途中の過程などを記述する問題が含まれている。
- 単に計算の結果や答えのみを問うのではなく、問題解決の過程を含めて記述するといった解決に至るまでの過程を重視したい。なぜなら、問題解決にいかされる知識や技能は、互いに連携し合う形で、構造化された知識や技能として積み重なったものでなければならないと考えているからである。このように考えると、やはり授業が大切である。児童生徒に、算数・数学のよさや楽しさを実感させるとともに、思考力・判断力・表現力を身につけさせるべく、次の点に、工夫や改善を加えてほしいと考える。
 - ・ 問題解決的な学習における問題解決の見通しをもたせる指導の工夫
 - ・ 自力解決後の相互練り上げ(比較・検討・改善)で、思考の過程を筋道立てて説明する活動の工夫
 - ・ 思考の足跡が分かる板書とノートの工夫
 - ・ 言葉や数、式、図、表、グラフの意味や相互の関連を理解させる工夫

指導主事 松本 遵

理科

- 観察，実験を通して，結果を分析して解釈する能力，特に「モデルや図で説明できる深い理解」や「筋道を立てて論理的に表現する力」を求めた。
理科では，身近な自然の事物・現象の規則性，仕組み，原理などについて，実社会，実生活を含め，「他の事象と関連付けて考えることができる深い理解」や「探究の過程を通じた科学的な見方，考え方の育成」をねらいとしている。
- 今後，事象一つ一つの抽象的，表面的な理解から，物化生地領域を越えた事象同士の関連付けや具体的なモデルや図で説明できる深い理解に変えていく必要があり，以下の観点で授業改善を進めることが大切である。
 - 観察・実験を通じた学習活動のねらいの明確化（概念形成を図るための学習活動）
 - ・ 科学的な思考力を発揮する場面の重点化（課題設定，予想，企画，モデル思考，考察等）
 - ・ 児童生徒によるモデルや図による説明活動の導入（テキストからイメージ形成へ）
 - ・ 根拠を求める発表や話し合い活動の重視（発表に対する教師の切り返し）
 - 小中高等学校を通じたスパイラルな学習の理解（粒子概念，空間概念，エネルギー概念等）

主任指導主事 濱田 耕一

英語科

- 「聞くこと」の問題においては，聞き取った英語を基に，複数の英文を読んで選択する問題を出題した。また，「書くこと」の設定においては，会話文の内容を読み取り，会話をしている人物の立場に立って応答文を作成する基本的な問題や自己紹介や好きな季節について，英文3文以上で自分の考えなどを表現する問題を出題した。
- 4技能の総合的な育成と4技能を統合的に活用する力の育成が求められており，年間指導計画，単元の指導計画及び1単位時間の指導計画の工夫・改善を図ることが求められる。
そこで，次の点に留意して，外国語科の学習指導の充実を図ることが大切である。
 - 4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の基礎を育成する指導の充実
 - ・ 技能と技能を効果的に関連付けた言語活動の工夫
 - ・ 英語を聞いたり，読んだりして理解したことを基に，表現する活動へと関連付ける工夫
 - ・ 単元や1単位時間において，指導の重点化を図る言語活動の工夫
 - 「書くこと」の表現力を育成する指導の充実
 - ・ トピックを指定してつながりのある複数の文を書かせる指導の充実
 - ・ 正しい語順や語法を用いて文を構成させる指導の充実

指導主事 原崎 竜一

児童生徒質問紙

- 本県児童生徒の学力については，基礎的・基本的な知識・技能を活用し，思考・表現する力が不十分であることから，質問紙調査では，児童生徒の家庭学習や学び方の実態及び授業中の学習活動の状況等を把握することでその要因を探り，指導法改善につなげるための調査を実施した。
 - ・ 家庭学習については，ほとんどの児童生徒が，与えられた課題や既存の練習問題を解く学習をしており，自分でテーマを決めて調べ，まとめるなど思考・表現を伴う内容に取り組んでいる児童生徒は少ない。
 - ・ 分からない問題を「そのままにしておく」と回答した割合が，学年が上がるにつれて高くなっていることから，各種調査等における無回答率との関連を検討する必要がある。
 - ・ 教科指導において，話し合い活動や説明する活動が少ないと認識している割合や，主体的に課題を解決するなどの能動的な学びに対する志向性は，学年が上がるにつれて低くなる。
- これらのことから，家庭学習や授業の在り方についての小中連携を強化し，これまで以上に，基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせながら，これらを活用し，思考・表現する機会や場を多く設定し，そのことが学力向上につながると実感できる経験を積み重ねていくことが必要と思われる。

指導主事 内田 奈緒美

ねらい

- 話し手に関心をもち、目的や意図に応じた「聞き方」の内容や方法について考えながらインタビューすることができる。

学習指導要領における内容

〔第5学年〕 A 話すこと・聞くこと


- (1) エ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

授業アイデア例

【大問7の活用】

まきさんが所属する情報委員会では、かべ新聞の「先生しょうかいコーナー」を書くために、先生方にインタビューをすることにしました。
そして、まきさんは、みつおさん、しんごさんといっしょに、図書室でよく会う三年担任の山中先生取材しました。

主な学習内容・活動

- 問題文に書いてある内容からインタビューの目的や意図をとらえる。
 - 山田先生はどんな人か、そう判断した理由も含め話し合う。
 - どのように聞けばよかったのか、自分で考えたことを出し合い、そう考えた理由について練り上げる。
(相互解決)
- 
- 発表させ、全体で共有する。
 - 本時のまとめと評価をし、次時の予告をする。
 - ・ 単元の目標の設定
 - ・ 学習計画の立案

主な発問・指示



- このインタビューの目的は何ですか。
 - ・ 先生のしょうかい
 - ・ 学校みんなに先生のことをよく知ってもらうこと
- 山田先生はどんな人でしょう。そう考えた理由も含めて、考えましょう。
- どんな人かはよく分からなかったね。では、どのように聞けばよいのかな。
- 自分で考えたことをグループの中で出し合い、そう考えた理由について、みんなでよりよい説明になるよう練り上げましょう。
- そう考えた理由も含めて、説明しましょう。
- これから「友達と互いによりよく理解し合うためのインタビューをする」学習をしていきます。友達のことをよりよく理解するには、どのようなことをどのように聞けばよいのでしょうか。

留意点

- ・ 単元への興味・関心を高めさせるために、調査問題を活用して、課題を明らかにさせる。
- ・ 問題文のインタビューの様子から、話し手の人となりについて、客観的な事実に基づいて話し合わせる。
- ・ 友達同士が感じ方や考え方に共通点や相違点があることに気付かせたり、聞き方を通して友達理解が深まることを実感させたりするために、話し手がどんな人かについての考えを、理由付けをしながら話し合わせる。
- ・ 友達をよりよく理解するにはどのようなことをどのように聞けばよいか予想させ、児童の意欲化を図る。

単元を貫く言語活動：「聞くこと」について考えよう

- ・ 友達へのインタビューの試行と見直しなどの活動を通して、友達をよりよく理解するためにはどのようなことをどのように聞けばよいのか考える言語活動。
(本学習を生かして、日常の学校生活での活用場面を想起させる。)

ねらい

- 集めた中から目的に合った材料を選び、書く事柄のまとまりや順序など文章を構成することができる。

学習指導要領における内容

- 〔第1学年〕 B 書くこと
 (1) イ 集めた材料を分類するなどして整理するとともに、段落の役割を考えて文章を構成すること。

授業アイデア例

【大問6の活用】

美香さんのクラスでは文化祭で劇をすることになりました。主役を務める美香さんは、離れて暮らし、一度も中学校に来たことがない祖母に、劇を見てほしいと考えています。そこで、次の【案内文】を参考にして祖母に【手紙】を書きました。

- 小問
- ・ 時候のあいさつ
 - ・ 文章の構成
 - ・ 表現の工夫
 - ・ 叙述の仕方

地域の皆様
 平成25年10月1日
 ○○中学校生徒会
 文を頼りのご案内
 () 皆様にお知らせいたします。○中学校では今年も下記のとおり、学習発表会を行います。○
 1 日 時 11月10日(日) 午前10時から午後2時
 2 場 所 ○○中学校体育館(△△地区)内
 3 内 容 学習の成果の発表・合唱・展示等
 4 その他 上げきをご確認ください。
 ○

おばあちゃんへ
 通文のよきお返事を書いてください。元氣にしてください。今度の文化祭も、私のクラスでは、おばあちゃんに文化祭について話さないでほしいとお願いすることになりました。私は主役の目録を渡し、発表会は11月10日の日曜日、お出でください。お返事は平気な時かいて。念のため、1冊には練習用紙に書いておきたいと思っております。
 ○
 少しでも練習して本番は一生懸命頑張りますのでお返事をお願いします。
 美香より

主な学習内容・活動

- 学習課題をつかむ。
- 文化祭の案内状で何を取り上げるか、材料メモを作成する。
 - ・ 必ず伝えるべき内容
 - ・ 送る相手
 - ・ 書き出しと結び
 - ・ 特に紹介したい内容
- 自分の考えを出し合い、グループで練り上げる。
- 各グループの考えを整理し、まとめる。
- 学習のまとめと評価をする。

主な発問・指示

- 目的に応じて材料を集め、整理し、書く事柄のまとまりや順序などを考えて文章を構成しよう。
 - ある中学校で地域の方々に送る文化祭の案内状を作成することになりました。そこで、地域の方々に大勢来ていただけるようにするには、何を取り上げたらよいか考えてみましょう。
- 私たちが一生懸命に取り組んでいる思いを書いたらどうかな。
- 内容を紹介したらいいのかな。でも、多すぎるよね。
- お世話になっていることへの感謝の気持ちを書けば、招待という感じが伝わるんじゃないかな。
- 課題解決の途中の過程を出し合い、よりよい案内状を作り上げましょう。
 - よりよい案内状を作る上での注意点を確認しましょう。

留意点

- ・ 学校から地域の方々への行事の案内状を参考にし、生徒の興味・関心を高めさせる。
- ・ 個で取り組ませ、その後、ペアで意見交換させる。
- ・ グループでの意見交換の結果を発表させ、全体で確認する。
- ・ 課題解決につまずいている生徒には、解決のポイントを与え、考えさせる。
- ・ 問題に取り組ませ、その成果を全体で確認し、まとめる。

単元を貫く言語活動：文化祭の案内状を作ろう

- ・ 文化祭の案内状を作成するために、材料を集め、整理し、書く事柄のまとまりや順序などを考えて文章を構成する言語活動。

ねらい

- 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめ、効果的に報告することができる。

学習指導要領における内容

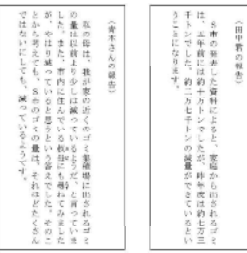
- 〔第2学年〕 B 書くこと
 (1) ア 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめること。
 エ 事実や事柄、意見が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたりして書くこと。

【大問7の活用】

授業アイデア例

田中君と青木さんは、「自分たちが住んでいるS市のゴミがどのくらい減量化できているのか」について調べ、クラスで報告することになりました。以下は、クラスの黒板にはりだした青木さんと田中君のそれぞれの報告です。

- 小問
- ・ 必要な情報が十分に含まれているか検討する。
 - ・ どのような調査や資料に基づいたか明確にする。
 - ・ アンケートをするときの注意点を確認する。



主な学習内容・活動

- 学習課題をつかむ。
- 問題文を読み、田中君と青木さんの報告文のよい点や課題について自分の意見をまとめる。
- グループで自分の考えを出し合いながら、相互に練り上げる。
- 各グループの考えを整理し、調査や資料を作成する際の注意点をまとめる。
- 学習のまとめと評価をする。

主な発問・指示



- 学校図書館などを利用した資料の収集やアンケート調査などの方法によって材料を集め、比較、検討しながら自分の考えをまとめ、効果的に報告しよう。
- 問題文の田中君と青木さんの報告文を読み、それぞれのよさや改善点についてノートにまとめてみましょう。
- グループをつかって、自分の考えを発表し、その根拠も含めて練り合いましょう。



田中君の資料は、客観的なデータが示されているけど、出典がはっきりしないなあ。

青木さんは身近なところから調べているけど、主観的な報告になっていると思う。2か所だけでは・・・。

- グループの考えを発表しよう。
- 多様な方法で材料を集める際の注意点を確認しましょう。

留意点

- ・ 自分の住んでいる町の状況と照らし合わせることで、生徒の興味・関心を高めさせる。
- ・ 生徒の意見をできるだけ多く取り上げる。
- ・ 個で取り組ませ、その後、ペアで意見交換させる。
- ・ グループでの意見交換の結果を発表させ、全体で確認する。
- ・ 課題解決につまずいている生徒には、解決のポイントを与え、考えさせる。
- ・ 自分の考えや他者の考え、学んだことなどが記入されているかについて、ノート指導を継続する。

単元を貫く言語活動：ゴミの減量について報告文を書こう

- ・ ゴミの減量について、多様な方法で材料を集め、比較、検討しながら効果的な報告文を書く言語活動。

ねらい

- 「工業が貿易を通じて世界とどのように結び付いているのか」を学習課題とした単元において、輸出の様子から、日本の工業生産の特色や変化について話し合う。

学習指導要領における内容

〔第5学年〕

- (3) 我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。
- ウ 工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き

授業アイデア例

【大問14に関する参考例】

- 調べる学習では資料を効果的に活用したいが、その際には、活動のねらいに即した発問により、何を読み取るかや何を考えるかを明確にして調べさせる。また、考えたことや分かったことを発表させる際には、理由や根拠も含めて発表させることで、思考を深めさせたい。

単元の流れ

【第1時】 具体的な貿易港（例えば名古屋港と横浜港）での輸出入の様子を調べ、日本の工業生産にかかわる貿易の特色について、問題意識をもたせ、単元の学習課題を設定する。

日本の工業は、貿易を通じて世界とどのように結び付いているのだろうか。

【第2時】 日本の工業に関する輸入について、主な輸入品や相手国、輸入品の変化などを調べ、その特色や変化について話し合う。

【第3時】 日本の工業に関する輸出について、主な輸出品や相手国、輸出品の変化などを調べ、その特色や変化について話し合う。

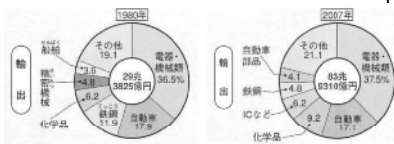
【第4時】 貿易の面からみて日本の工業生産にはどのような特色や問題点があるのか話し合い、貿易や工業生産に関して、これから日本が他の国々などのかかわればよいか自分の考えをまとめ発表する。

主な学習内容・活動

- ◎ 本時の学習課題（めあて）

日本の輸出にはどのような特色や変化があるのだろうか。

- 日本の主な輸出品や輸出相手国を調べ、どのような特徴がみられるか話し合う。
- 現在と以前の日本の輸出品を比べて気付くことについて、それはなぜなのかを話し合う。



主な発問・指示等

グラフの見方や資料を読み取る際に気を付けることなど、段階的に指導することが重要である。

- グラフ（資料）からどんなことが分かるか。

変わらない点にも着目させその意味を考えさせる。

- グラフを比べてどんなことに気付くか。
- 変化しているのは何か。また、なぜ変化してきたのか。

海外での現地生産などを示した資料で具体的に理解させる。

書く活動が有効であるが、時間が限られる場合等、発問により観点をしばって自分の考えを書かせると効果的である。

- 輸出の面から、日本の工業生産の特色や変化についてまとめる。
- 輸出の特色や変化から、日本の工業生産ではどんなことを大事にしていくことが必要だと思うか。

重点事項

- ・ 発問により、何を読み取るかや何を考えるかを明確にして調べさせる。
- ・ 理由や根拠を意識させて発表させることで、思考を深める。

ねらい

- 単元の主題を「EUの発展と地域間格差」とし、「EU加盟国では、政治・経済的統合が人々の生活にどのような影響を与えているか」という問いを立て、EUを構成する国の相互関係や域内の地域間格差等を調べ、ヨーロッパの地域的特色を理解させる。

学習指導要領における内容

地理的分野〔第1学年〕 (1) 世界の様々な地域 ウ 世界の諸地域
 世界の諸地域について、以下の(ア)から(カ)の各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させる。
 (イ) ヨーロッパ

【大問3の(4)に関する参考例】

授業アイデア例

- 世界の諸地域の学習は、地域的特色を大観させた上で、主題を設けて地域的特色を理解させることとなっている。この例は「EUの発展と地域間格差」という主題を設定したものである。資料を効果的に活用し、資料から読み取ったことをもとに、根拠や理由を明らかにさせながら、分かったことや考えたことを話し合いたい。また、自分の考えを整理してまとめさせるため、書く活動を効果的に位置付けたい。

主な学習内容・活動

◎ 学習課題

ヨーロッパではEUによる統合が進むことで、どんな変化がおきているか。

- EUが誕生するまでの経緯と加盟国の広がりについて調べる。
- EU加盟国同士の結び付きや経済活動を活発にするための取組について調べる。
- EUが抱える課題について調べる。
 書く活動が有効であるが、時間が限られる場合等、発問により観点をしばって自分の考えを書かせると効果的である。
- 本時のまとめをする。

主な発問・指示

予習したことを答える発問を組み込むなど、家庭学習と連動させた授業が効果的である。

- EUにはどんな国が加盟しているのか。
- EUはいつごろできたのか。
- なぜ国同士の結び付きを強める必要があったのか。
- 世界の貿易に占めるEUの割合が高いのはなぜか。
- EUに加盟することでどんな利点があるのか。
- 地域の格差が大きいとどんな問題があるのか。
- トルコの加盟申請に反対があるのはなぜか。
- EUの今後の課題となっていることを理由も含めてまとめよ。

留意点

構造的な板書を工夫し、授業の最後に学習内容を確認できるようにする。

- ・ 発問や観点の提示により、調べることや考えることを明確に示す。

特に、「なぜ」「どのように」と問うことで、理由や関連について思考させることができる。

- ・ 考えや意見を述べる際に、資料から読み取ったことなど、根拠も含めて発表させる。

- ・ 経済支援をする側、受ける側の視点をもたせて考えさせることで、具体的に理解させる。



- ・ 学習課題についてのまとめは、板書を活用して確認する。

重点事項

- ・ 予習課題を効果的に活用し、家庭学習と授業を連動させる。
- ・ 理由や根拠を意識させて発表させることで、思考を深める。

ねらい

- 学習した内容を活用してその時代を大観し、表現する活動を通して、時代の特色をとらえさせる。

学習指導要領における内容

歴史的分野〔第2学年〕 (4)近世の日本
 ア 戦国の動乱，ヨーロッパ人来航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを通して，近世社会の基礎がつけられていったことを理解させる。

【大問4に関する参考例】

授業アイデア例

- 学習指導要領において「各時代の特色をとらえる学習」が新設されている。単元の各単位時間においては，それぞれの歴史的事象の理解を深めることが，まず大切であり，その時代の特色まで十分にとらえさせることは難しい場合もある。各時代の学習のまとめとして「各時代の特色をとらえる学習」を位置付け，論述や説明などの言語活動を重視した学習を行うことで，思考力・判断力・表現力の育成を図るとともに，その時代についての歴史認識を確かなものとした。

主な学習内容・活動

- ヨーロッパ人の来航から織豊政権の成立に係る時代の主なできごとを振り返る。

時代の特色や歴史の流れをとらえやすいことがらを取り上げ次の学習活動につなげる。

例) 宗教改革，新航路の発見，鉄砲伝来，キリスト教伝来
 楽市・楽座，刀狩，太閤検地

- 各事項の原因や影響を整理し，なぜ重要なできごとなのか説明する。
 - ・ 関連する事項を拾い上げ，どんな関連があったか振り返り，整理する。
 - ・ 原因や影響を考察し，なぜ重要なできごとなのかを論述させる。

- 論述したことの発表と質疑応答を行い，時代の特色をとらえる。

- この時代の特色について，自分なりのまとめを書く。

主な発問・指示

- 学習してきたこの時代の様子で，重要だと感じたのはどのできごとか。

- なぜ重要だったと言えるのか原因や影響を振り返ってみよう。

- 発表を聞いて分かりにくいところや足りないと思うことはないか。

- 特に大事だと思うできごとはどれか。また，それはなぜか。

留意点

- ・ 年表等を活用して学習した時代の様子を概観させる。

単元の学習を進める中で，各自で年表を作成させておき活用するのもよい。

- ・ 関連する事項のリストアップや原因・影響の整理は，教科書やノートを十分に活用させる。

関連する事項をリストアップする際にはイメージマップの手法等を使うと，構造的にまた視覚的に分かりやすい。

最初は文例を示したり，記述する観点を示すなど，論述の仕方については段階的に指導することが重要である。

発表に対しては必ず質問させる。質問することで，質問者も発表者も思考を深めることができる。

どれを大事だと思うか考えさせることで，時代の振り返りと自分なりの時代認識を深めさせる。

重点事項

- ・ 単元の内容を再構成して時間を確保したり，単元のまとめの時間を使って，自分の考え等をまとめた文章として記述させる機会をもち，書く活動を有効に活用する。